

あなたの重荷を主にゆだねよ

主は、あなたを支えてくださる。

主は、決して正しき者が倒れるようにはなさない。(詩篇55の23)

Cast your burden on the LORD and he will sustain you,
He will never let the righteous fall.

どんな人でも心に重荷を持っている。それは病気や、人間関係、災害や事故による苦しみからくる重荷などさまざまである。そのような重荷を軽くしたいというのは万人の願いである。聖書は、飲食や娯楽その他によって重荷を忘れようとするのではなく、重荷を見つめつつ、しかもそれが根本的に軽くされる道を示している。

それが、ここに記されていること、「主にゆだねる」ということである。愛の神、真実な神がおられて私たちを守ってくださっているゆえに、その神にゆだねるということである。ここで「ゆだねる」と訳されている原語(ヘブル語)は、ハーラクといい、「投げる」というのが原意である。(*) 穴に投げ込む…(創世記37の20)など。

英語訳聖書も、上記のように、cast(投げる)を用いている訳が多い。このように「投げる」という言葉を用いているのは、そのことによってただちに重荷が軽くなることを実感していたゆえと考えられる。

私たちの重荷には、さらに深い根をもったものがある。それが自分の弱さゆえの重荷である。正しいことができない、他者への愛のない言動、あるいはどうしても真実にならなかったことができない—このようなことを罪といっているが、その罪の重荷こそ、もっとも深い重荷であり、しかもすべての人が持っている。その人が意識せずともそれはある。使徒パウロのような人であっても、善いことをしようという意志はあるがどうしてもできない死のからだを持っていると言っているほどである。

こうした人間の本質にかかわる重荷を含め、いっさいの重荷を軽くする道、しかもだれにでも与えられるのがこの聖句による道である。それは、長期にわたって修行してやっと軽くなる、というのではなく、ただ神とキリストを信じるだけでよいのである。このことは、「天路歷程」という作品のなかでも記されている。天の国に向かって旅をする人が、旅路の途中で、キリスト十字架の立っているところに向っていくと、十字架のある場所に到達したちょうどそのとき、それまで彼の重荷だったその荷物が肩から落ちた。キリストの十字架を見つめることがこのように重荷を取り去って楽にする、ということは驚くべきことであった…(「天路歷程」岩波文庫 98p)

キリスト教信仰の大きな恵みはここにある。現代においても、キリストの十字架を私たちの罪を赦してくださるためのものだったと信じて仰ぐときには、私たちの心の重荷が不思議に軽くされる。キリスト者とは、このような実感を与えられた人のことである。

主イエスご自身、次のように言われた。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイ11の28)

このよく知られたイエスの呼びかけは、上にあげた聖句にあるように、古く旧約聖書の詩篇にその源流がある。はるか数千年昔から、このように重荷を背負って苦しんでいる無数の人間に対して、神は呼びかけてきたのである。そして過去にどんな罪を犯した者でも、また病気や人間関係で苦しみ、その重荷に耐えかねている人たちすべてに、その重荷を私のところに来て軽くするように、と呼びかけてくださっているのである。



この花は、本州中部から北海道の高山、サハリンなどに自生し、ややしめった所に見られるものです。深山に生育するために一般的にはあまり知られていない花です。

大雪山というのは、黒岳、赤岳、旭岳等々の多くの山々の総称で、そのうちこの花を撮影した赤岳というのは、ロープウェイなどもなく、一般の観光客はなかなか立ち入れない奥まったところにある山です。真夏であっても下記の写真のように、かなりの雪が残っています。

フキの葉のような大きな柔らかい葉の付け根のところから真っ白の花が咲き、黄色い雄しべ、緑色の雌しべとともに、清い雰囲気をつたえた花です。

花の大きさは、2cm程度の小さな花ですが、30cmにも及ぶ大きな葉から花茎を出して咲いていて、この様子は、大きな御手の中で慈しまれているようでなにかほのぼのとしたものが感じられます。

この純白の花は、その雰囲気が緑の羽をもった天使のようであり、林の中で静かに咲いていたものですが、見つめるものに、語りかけて来る雰囲気があります。

この花を創造した神のお心、そのご意志がこの花を通して伝わってくるようです。 (文・写真ともT. YOSHIMURA)



(赤岳への道にて)